

The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

# LFPI News Letter

## Spring 2002 No.19

### 持続可能な社会



昨年小泉内閣が、世間の予想を翻し発足され、約10ヶ月になろうとしている。

「聖域なき構造改革なくして、持続的経済の発展は無い」と基本理念を掲げて邁進する小泉首相を、マスコミの報道

で知る限りにおいては、次元が違うところで政治・経済が、実体の伴わない形で処理されようとしているのではないか、と危惧せざるを得ない。

『持続可能な社会』とは、どのような社会を言うのだろうか。政治について言うならば、現実として極端に主義・主張を変えることは、国民にとっては、またその国民と共同体である企業は、大変な不安と困難を抱えることになる。

『改革』と言う言葉は、大変進歩的な耳触りの良い言葉であるが、強者のみ優遇され、努力しても報われない弱者は、必要ないかの如く決め付ける社会に変革されたのでは、本当に子孫繁栄を継続することは難しいのではないか。自然界には、様々な相反する種類のもので、お互いに相対して共生していることを、忘れてはならないと思う。歴史は永い年月を経て改革、さらに持続されて来ている。短期間で無理やり変えようとした時は、いつも弱い民が被害を被ることになる。

本当に必要なことは、人間は現在限られた地球上の資源の中に生活を営んでいることを知る。また持続可能な社会を維持するには、消費重点の社会構造を改め、無理・無駄を出来るだけ抑制し、循環型生産体制を基本にした社会を、指針とすべきではないかと思う。農業・漁業・林業等、循環型社会を軽視した政治には、持続可能な社会を望むことが出来ないだろう。

経済についても、GDPの60%が消費であるから、「消費が活発になる政策を積極的に施行しなければならない」と一般的に言われている。現在の日本の場合『衣・食・住』と言う生活の三原則は、ほぼ足りている。品質と嗜好が人それぞれの選択に任される時代に入っている。ただやみくもに、安く大量生産すれば売れる時代は、終焉したのではないか。在庫が増え、時価評価をしたら、不良資産が利益を食い込んでいたことになる。また、売れ残りを産業廃棄物として処理することは、無駄なエネルギーの消費である。

これからの21世紀を企業として継続するためには、『循環型社会』に配慮した行動を起こさなければ、肝に命じる必要がある。少量多品種の商品でも、創意工夫をし、品質の良い物を安く提供すること、しかも市場が何を望んでいるか先取りし、商品開発を積極的に行い、提案しなければ、持続可能な企業にはなれないと思う。東南アジアの『低コスト・賃金』とのみ競争することは、初めから勝負があって当然である。これからは、将来に対し前向きな考えを持って、少しでも『次の世代』に負担を掛けないよう『投資』を行うことが必要である。と痛切に感じている。

高瀬 武雄

東洋スクリーン工業(株) 代表取締役社長

## セラム・ジャパン2002 報告

3年に1度開催しているセラミックス製造機械展「セラム・ジャパン」が2月21日～23日の3日間、名古屋にあるナゴヤドームにて開催されました。

今回は「ファインセラミックスフェア2002」との共同開催となり、会場がナゴヤドームであったという相乗効果もあり、来場者も非常に多く3日間で48,661名(プレス発表)



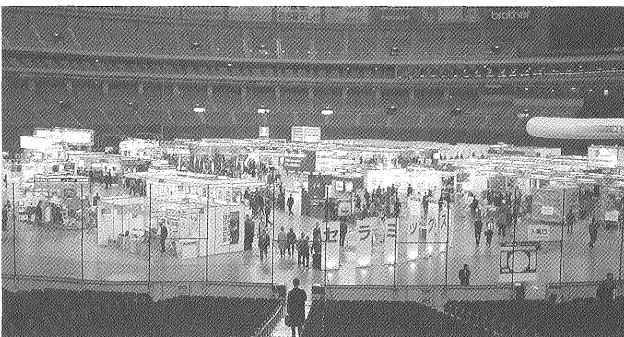
LFPIのブース

発表)と「セラム・ジャパン」としては過去最高でした。出展会社数は全体で国内外合わせて168社(セラム58社、ファインセラミックス110社)、小間数は294小間(セラム140小間、ファインセラミックス154小間)でした。当工業会も2小間確保し、工業会の活動紹介パネルとパンフレットを配布した。用意した200部全てのパンフレットが配布され工業会の良いPRとなった。

今回の展示会は、新世紀に向けて今まで個別で開催されてきた「セラム・ジャパン」と「ファインセラミックスフェア」を合同で開催することにより、トラディショナルからファインまで、製造機械から製品までセラミックスの全てを網羅した展示会で、今回はリサイクル、エネルギー特に高周波を用いた新しい焼成技術の紹介、環境保全、さらにあらゆる製造業種に応用が広がる技術が展示されていた。

今回の展示会は、新世紀に向けて今まで個別で開催されてきた「セラム・ジャパン」と「ファインセラミックスフェア」を合同で開催することにより、トラディショナルからファインまで、製造機械から製品までセラミックスの全てを網羅した展示会で、今回はリサイクル、エネルギー特に高周波を用いた新しい焼成技術の紹介、環境保全、さらにあらゆる製造業種に応用が広がる技術が展示されていた。

講演会も中部地区でセラミックスに関する研究で著名な名古屋工業大学学長柳田博明先生と大同工業大学学長澤岡昭先生の特別講演2件と今話題の技術セミナー3件があり、講演会全ての会場が超満員となった。



会場風景

3年後には当地区で万国博が予定されているので、万国博の時には今回の2つの展示会に更に(社)セラミックス協会が加わり、日本を代表する「セラミックス総合展(仮称)」を計画しているそうで次回が楽しみな展示会であった。

<㈱マキノ 浅井 信義>

## セラムジャパンとLFPI主催展示会の展望

構造改革で始まった21世紀も既に2年目に入った。企業も21世紀型の戦略が必要とされている。日本の景気はアメリカの景気回復頼りであり、20世紀型の経済改革では前途多難である。では、21世紀型の企業戦略とは・・・?

さる2月に名古屋ドームで開催されたファインセラミックスフェアとセラムジャパンは、新しい展示会の方向性を示したものであった。セラミックス製品を展示するファインセラミックスフェアとそのセラミックスを製造するための設備、材料、プラントなどを提供する企業の展示会セラムジャパン、つまりユーザーとサプライヤーの展示会が同時に開催されたわけである。この展示会の形態はファインセラミックスフェアが開かれた19年前には両者が出展して盛大に開催されていた。当初は新しいセラミックスと区別する為にニューセラミックスと呼ばれたが、次第にファインセラミックスに統一されて現在にいたっている。このファインセラミックス業界を現在牽引している産業は、もちろん『IT』産業であるが、代表的な業種は自動車産業である。ファインセラミックスの生産は金額ベースでも過去20年間で約3倍の1兆9000億円になっている。これに対してオールセラミックスと呼ばれるタイル・衛生陶器・食器などの産業は、加速度的に海外進出ないしは縮小し、国内の生産量は激減している。そのような中、ファインセラミックスへの転換、従来の生産方式の見直し、アウトソーシングなど生き残りを賭けた企業戦略が実行されている。成功企業例では、トップ直結による迅速で大胆な技術開発である。では、この展示会は成功であったのか? 出展関係者の言葉では、誰もが成功であった! 出展者の募集中には、IT不況の真只中。予算の削減、誰もが予定ブースを埋めることが出来るのだろうか? 展示会主催者は必至で出展者を募集して回った。ある企業ではなぜ今の時期に開催するのか? 発表する新製品がない? リストラしているのに! 展示会で即効果が出ない? など多くの否定的な声が大勢を占めていた。然し昨年末にはIT関連の在庫調整も目途が付き、トヨタ自動車・デンソーを中心とする自動車産業とノリタケカンパニー・日本ガイシ・日本特殊陶業を中心とする森村グループの企業が多く出展し、盛大に開催することが出来ました。特に目立ったのは、新製品が多く出たことです。これから量産する製品、新しい機能性セラミックス製品、多品種・低価格・短納期に対応する新しい生産システムなど、新製品発表が多く、注目を集めていた。入場者も多く、単独展示に比べて倍以上の入場者であった。また、LFPI宣伝用に2コマを無料提供されたが、用意したパンフレットはすべて配布でき、LFPIに対する関心の高さも確認できた。

では、当LFPI主催の展示会をどのように開催すべきか、理事会、幹事会で展示会の開催について検討をしてきました。開催場所、時期、方式など多くの貴重なご意見をいただきました結果、第1回目の展示会を2003年4月に名古屋市内の吹上展示場で開催される粉体工業展と共に開催することになりました。夏以降の景気回復を期待し、大変短い準備期間ですが、名古屋での第1回LFPI展示会を開催したく、会員の皆様方のあたたかいご理解とご協力をお願い申し上げます。

<㈱マキノ 牧野 克則>

## 日・中交流会ツアー 計画案／講演会のお知らせ

## 日・中交流ツアー 計画案の紹介

既報の通り、国際交流委員会では現在2002年国際交流企画である中国との技術・ビジネス交流を計画中ですが、日程と訪問先がほぼ固まりましたのでお知らせします。まず日程ですが、9月26日-29日北京で開催される「第4回膜・水処理技術と装置に関する国際展示会」に合わせて実施します。また、地域は北京の他に上海方面を入れました(下記日程表参照)。

最初に訪問する上海では工場見学を中心に中国の現状を視察したいと考えています。見学先は日系企業と液体清澄化技術に関する中小メーカを候補に挙げて現在調整中です。次の北京では前述の展示会見学と当会主催の技術交流講演会などを企画しています。

費用は6泊のホテル代、食事代、懇親会、航空券代、その他移動代(バスチャーター他)等でおおよそ20万円と予想しています。なお、これは1泊1万円程度の中級ホテル(シングル部屋)を利用する場合です。

北京展示会ではLFPIと膜分離技術振興協会(膜協)との共同で1小間出展する案もあります。このブースではLFPI/膜協の会員企業のカタログを展示し、現地の方に連絡員になってもらい、接客しながらカタログを持ち帰ってもらうという方向で詰めているところです。

以上まだ計画段階で詳細にご紹介できず恐縮ですが、早急に具体案を作り、皆様にお知らせ致します。よろしくご検討頂きご参加賜れば幸いです。

## 概略日程

9/22(日)	日本発(日本→上海)
9/23(月)	上海での工場見学
9/24(火)	上海での工場見学
9/25(水)	北京へ移動
9/26(木)	北京での展示会+技術交流会+懇親会
9/27(金)	北京での展示会/他
9/28(土)	北京より帰国(北京→日本)

## 講演会「中国ビジネスを考える」のお知らせ

前号で1月中に内容をお知らせする旨報告しましたが、講演者の都合で日程が決まらず、正式なお知らせが遅れておりました。以下の通りほぼ講演者、日程、内容が固まりましたのでお知らせします。詳細は別紙申込書をご参照下さい。

日 時:5月16日(木) 13:30-19:00

講 演:13:30-17:30

懇親会:17:30-19:00

場 所:ヨコハマプラザホテル(横浜駅東口徒歩3分)

## プログラム

挨拶:松本幹治 横浜国立大学教授

講 演:

1) 佐々木良樹氏 (株)セイシン企業 内部監査室 室長「中小企業の中国ビジネス経験-開拓から合併企業設立~運営~」

内 容:中国初出張から20年、中小企業であるが故、中国での営業・販売業務と合併会社、事務所設立の企画、交渉、設立後の運営など全てに携わってきた。中国(人)に対する見方・印象は経験と共に変わりつつあるが、現在私なりに感じている事を今となっては笑い話にしかならない失敗談などエピソードと共に紹介し参考にして頂きたい。

2) 齊藤智久氏 TACTコンサルティング代表、元上海花王 董事長「成長する中国マーケットとビジネス・ポイント」

内 容:

I 隣りの国は外国である

- ①地域差と多様性 ②不透明な法規制 ③データの不備
- ④ダイナミックな変化

II 設立・マネジメントの留意点(人・金・物)

- ①若手を選べ(パートナーを含め40歳以下)リーダーとは、自己と目先が優先、“問題ない”と無責任、チャレンジとインセンティブ ②契約の大切と記録 ③ビジネスと友好、割り切り(合理性) ④目と足で稼げ ⑤品質管理の徹底 ⑥売り掛け管理 ⑦ニセモノ対応

III 日本側の留意点

- ①日本を持ちこむな ②独自性・新奇性のものを ③駐在トップはねばり強くフレキシブルな人材を

3) 桂 軍氏 上海ビジネスコンサルティング(株) 社長「どうする中国進出」

内 容:①日本企業向け中国ビジネス(中国における製造、中国市場への展開の為の必要知識) ②中国ビジネスの実施方法と具体的な留意点 ③既に中国ビジネスに進出している企業のケーススタディ

4) 懇親会



## 2002 これからの展示会ガイド

シージャパン2002	4/10~12	東京ビッグサイト
2002中部パック	4/10~12	ポートメッセなごや
第3回高効率・省エネ促進技術展2002	4/17~19	幕張メッセ
第一回国際医薬品原料・中間体展	4/17~19	東京ビッグサイト
第7回国際食品素材/添加物展・会議	5/15~17	東京ビッグサイト
西日本食品総合機械展・西日本厨房機器展	5/22~24	マリンメッセ福岡
西日本食品材料ソフト技術展	5/22~24	マリンメッセ福岡
表面技術総合展—METEC'02	5/23~25	東京流通センター
2002NEW環境展・東京会場	5/28~31	東京ビッグサイト
第32回ハイテク浜松2002	5/30~6/1	浜松市総合産業展示館
2002国際食品工業展	6/11~14	東京ビッグサイト
水道展	6/13~15	名古屋市中小企業振興会館
インターメックス(金属加工機械展)2002	6/19~22	東京ビッグサイト
デジタル生産システムフェア	6/19~22	東京ビッグサイト
FA&コンポーネンツフェア	6/19~22	東京ビッグサイト
モノづくりワールド2002東京 製造技術総合展	6/19~22	東京ビッグサイト
第13回設計・製造ソリューション展	7/3~5	東京ビッグサイト
第6回機械要素技術展	7/3~5	東京ビッグサイト
第10回産業用バーチャルリアリティ展	7/3~5	東京ビッグサイト
第1回国際バイオEXPO	7/10~12	東京ビッグサイト
環境メッセ東北2002	7/18~20	夢メッセ・みやぎ
下水道展'02 名古屋	7/23~26	ポートメッセ名古屋
2002広島リサイクル・再資源化機材展	7/25~27	広島県立広島産業会館
2002分析展	9/4~6	幕張メッセ
2002NEW環境展・大阪会場	9/4~7	インテックス大阪
第4回自動認識総合展	9/11~13	東京ビッグサイト
VACUUM2002—真空展	9/11~13	東京ビッグサイト
中小企業ビジネス・メッセ2002	9/11~13	インテックス大阪
第4回国際新技術フェア2002	9/25~27	東京ビッグサイト
2002洗浄総合展	9/25~27	東京ビッグサイト
食品開発展2002	10/9~11	東京ビッグサイト
第2回エネルギー・環境ビジネス総合展2002	10/9~11	福岡国際センター
ニューアース2002<地球環境技術展>	10/16~19	インテックス大阪
フードテック2002	10/23~26	インテックス大阪
ジャパンフード2002	10/23~26	インテックス大阪
2002NEW環境展・福岡会場	11/7~9	マリンメッセ福岡
IPE(国際プラスチックフェア)2002	11/9~13	幕張メッセ
国際紛体工業展2002	11/12~15	幕張メッセ
第24回フード・ケータリングショー	11/12~15	東京ビッグサイト
全科展in東京2002	11/20~22	東京ビッグサイト
ウエステック2002(廃棄物処理・再資源化展)	11/26~29	幕張メッセ
セミコン・ジャパン2002	12/4~6	幕張メッセ

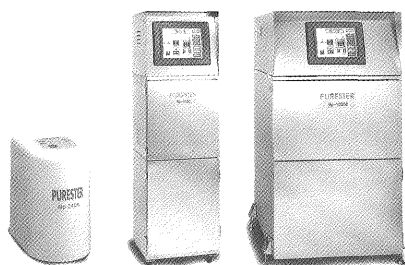
## 新製品／主力製品紹介

このコーナーは名簿順に掲載する予定でありますが、新製品開発がタイムリーな時期にあたる会員企業は優先的に掲載を検討致しますので広報委員・富士フィルター工業(株)ト部宛ご連絡下さい。

(E-mail : urabe@fujifilter.co.jp)

### 微酸性電解水製造装置「ピュアスター」

〈製品概要〉水に塩酸を加えて電気分解し、殺菌力のある次亜塩素酸を含む水を製造する装置です。塩素濃度10～30ppmで環境に優しく効率的な殺菌が出来ます。



### 〈特長・仕様〉

ピュアスター水はpH6前後と微酸性のため、次亜塩素酸が水中で最も多く含まれ、塩素濃度が10～30ppmと低くても次亜塩素酸ソーダの100～300ppm相当の殺菌力を発揮します。塩素濃度が低いため臭いが殆どなく環境にも影響を与えません。しかも強酸性電解水の様にpHが低くないため、腐食などの問題が起こりにくいのが特長です。食品工場の衛生管理を中心に幅広い用途があります。現在の機種は240L/H、1,200L/H、10,000L/Hで大量の使用が可能です。

### 森永エンジニアリング株式会社

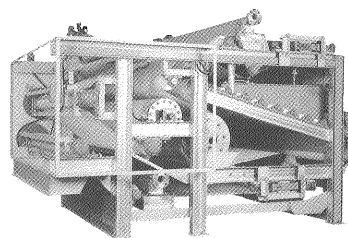
〒108-0073 東京都港区三田3-12-17

TEL (03) 3455-4261 FAX (03) 3454-0842

<http://www.morieng.co.jp/>

### 遊星ロール式ベルトプレス「デハイロールP型脱水機」

〈製品概要〉水処理の高度化・多様化に伴い、難脱水性の汚泥に苦勞される例が多くなっています。デハイロールP型は遊星ロール式圧搾機構を組み込むことにより、脱水性能の向上と小型・軽量化を両立させた経済的なベルトプレス型脱水機です。産業廃水等の処理工程で発生する各種汚泥から、ビールの仕込みかす、果汁等の搾りかすなど広範囲の処理対象に対して適用可能です。



る各種汚泥から、ビールの仕込みかす、果汁等の搾りかすなど広範囲の処理対象に対して適用可能です。

### 〈特長・仕様〉

①遊星ロール式圧搾機構の採用により、高い圧搾力とせん断力を繰り返しかけることができ、しかもロール側にろ液が抜ける構造のため、効率の良い脱水が行えます。②遊星ロール式圧搾機構により、高い脱水性能を維持しながら小型・軽量化に成功しました。脱水機の更新、増設に際し、設置が容易です。③遊星ロールへの汚泥のかみ込み速度を緩やかにし、ろ布からの汚泥のはみだしを生じにくくしたため、安定した運転が可能です。④シンプルな構造の上、遊星ロール部に軸受がなく、フレームと遊星ロールにステンレス材を使用しているので耐食性に優れ、維持管理作業が大幅に軽減されます。

### 株式会社荏原製作所 総合事業統括 営業第二部

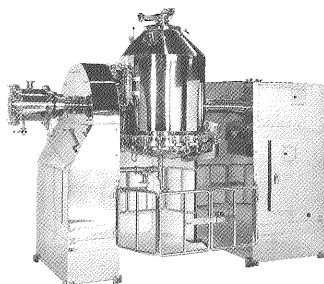
〒108-8480 東京都港区港南1-6-27

TEL (03) 5461-6111 (ダイヤルイン代表)

<http://www.ebara.co.jp/>

### 「ろ過乾燥機：FVドライヤー」

〈製品概要〉FVドライヤーは、コニカルドライヤーの機能にろ過機能を付加した、ろ過、乾燥、洗浄、混合などの多機能を持つろ過乾燥機です。攪拌機構がなくシンプルな内部構造で、サニタリー性や汎用性を求められる



る医薬品、食品、ファインケミカル製品の用途に適しています。フィルターは単板式で、焼結金属金網、焼結金属不織布、樹脂製ろ布など多様な材質を適用できます。

### 〈特長・仕様〉

工程間の移送を省くことができ、設備の簡略化ができますので、材料のロスや漏洩を防ぐことができます。異物汚染の原因となる軸シールや複雑な構造部分がないシンプルな構造で、点検扉を開ければ内部の状態が容易に確認ができます。容器固定型のろ過乾燥機に比べて伝熱面積が大きく、本体を回転させて材料を全体的に動かしながら乾燥するので乾燥能力が大きくなります。高真空での乾燥が容易で、極低温で乾燥したいものやポーラスな状態にした材料では真空凍結乾燥も行えます。装置は研究室用のラボ機から、本体容量3000Lまでシリーズ化されています。

### 株式会社大川原製作所

〒421-0304 静岡県榛原郡吉田町神戸1235

TEL (0548) 32-3211 FAX (0548) 32-6844

<http://www.okawara.co.jp/>

## 企業紹介

### NGKフィルテック株式会社

当社はセラミック膜および有機膜を用いた機器・装置・プラントを設計・製造する総合膜分離エンジニアリングメーカーを目指し1991年に設立されました。なお、営業活動は日本ガイシ(株)のセラミック事業本部の産業機器事業部が行なっています。

取扱い製品は医薬分野ではパイロジェンフリー製造装置、注射用水を製造する医薬用水製造設備および後工程の液調設備、半導体分野では純水・超純水製造装置および超純水帯電防止器、食品・化学分野では分離・除菌・精製装置、環境分野ではISO14000対応のセラミック膜を用いた研磨排水処理装置、RO膜を用いた希薄排水リサイクル装置などです。また、本年度には、新製品としてマスク・液晶などの洗浄用途に超純水中にセラミック膜を介してアンモニア水を混合させ比抵抗0.1~1.0MΩ/cmのアルカリ水を製造する機器および平均細孔径0.1~20μmの逆洗可能な安価な使い捨てのセラミック膜カートリッジフィルターなどを販売する予定です。当工業会には設立以来より参加しており、当工業会の更なる御発展に皆様方と貢献して行きたいと考えています。 <長谷川 宏>

### 株式会社小川環境研究所

弊社は廃水処理技術の開発を専門にする会社です。弊社の主力製品は、活性汚泥処理の運転管理解析制御装置であるTSAnalyzer(ティエスアナライザー)と活性汚泥の処理適性を測定解析するラボ用のテスト装置のTStester(ティエステスター)です。両者とも測定原理は3StepDO解析法(平成9年度中小企業ベンチャー振興基金受賞技術…弊社特許)によるコンピュータ制御解析装置で、活性汚泥の「汚泥活性度」(原水のBOD分解力)やBODを30分という短時間で連続定量評価し、活性汚泥の処理状況を把握します。TSAnalyzerは、従来ほとんど定性的な取扱しかできずブラックボックス状態だった活性汚泥処理を定量化できる特徴ある装置で、住友化学工業さんをはじめ大手化学会社の工場で稼働中です。またTStesterは同様に汚泥や処理の変化を刻々とコンピューター画面に表示するので、従来長いテスト期間と熟練したテクニックを必要とした活性汚泥処理テストをきわめて短期間でしかも比較にならない豊富なデータ出力で処理を解析できます。詳しくは弊社ホームページ(<http://www.ogawa-eri.co.jp/>)をご確認ください。

<小川 尊夫>

### 晃栄産業株式会社

本社・工場 〒476-0011 愛知県東海市富木島町前田面106番地 TEL052-603-3455 FAX052-604-1480

Website <http://www.koeisangyo.co.jp>

e-mail [info@koeisangyo.co.jp](mailto:info@koeisangyo.co.jp)

営業所 東京・大阪・九州

#### 取扱商品

佐藤式振動ふるい機

超音波発信器付振動ふるい機「ウルトラソニック」

解砕機構付振動ふるい機「ストレータ」

直下排出型振動ふるい機「つばさ」

粉粒体の技術は近年目覚しく進歩し、現代社会を支える各産業分野において、重要な役割を果たしております。粉粒体製造のプロセスの中で、「ふるい分け」は、重要なポイントであり、今後益々多様化され、その性能を問われる時代となる。私共は選別の重大さを厳しく認識し、永年携わった技術を基盤として皆様方のご要望に応えるべく、新商品の開発に最大の努力を注いでまいります。今後ともより一層のご助言と格別なるお引立てを賜りますよう心からお願い申し上げます。 <佐藤 一彦>

### ベックマン・コールター株式会社

1998年11月1日、ベックマン社とコールター社の統合により、新生ベックマン・コールター株式会社が誕生いたしました。

ベックマン社はアーモルドO、ベックマン博士が世界初のpHメータを開発したことを機に創立された会社です。以来、60余年にわたる歴史の中で常に斬新なアイデアに基づき科学研究の方法を変革してまいりました。近年では、蛋白質や遺伝子研究に注目し、研究に必要な分離・分析・解析技術を開発しております。

コールター社は、粒子の大きさと数を電圧の変化によって自動的に測定する「コールター原理」の発明者、ウォレスH. コールター氏によって創立され、以来、技術革新をモットーにたゆまざる努力を続けてまいりました。近年ではコールター原理に基づいた、最新型Multisizer3を発表し、業界のリーダーとして粒子物性の分野に力を注ぎ込んでまいりました。さらに、液中の異物をカウントする分野に応用できる装置を研究し続けております。私共は、21世紀に向けてますます積極的に未来科学分野に参画すべく努力を続けていく所存でございます。 <楊 逸明>

### 大連「膜分離技術研修会」を振り返る

2001年11月12-17日の6日間の日程で、中国化学工学会、(財)海外技術者研修協会(AOTS)および日本化学工学会が主催した「膜分離技術講習会」が大連で開催された。日本の化学技術情報を紹介する講習会の今回は7回目であったが、横浜国大の松本先生がアレンジされた日本と中国における膜分離技術の実情報告と情報交換の講習会であった。日本からは松本先生が「膜分離技術の理論と実際」、(財)造水促進センターの川崎氏が「製膜技術とNF・RO膜の応用」、三菱レイヨン(株)の上原氏が「日本の水処理技術における膜分離技術の現状」、古川が「食品製造への膜分離技術の応用」の四講義を行った。中国側からは中国膜工業会の郭有智秘書長が「中国における膜分離技術の現状」、精華大学の王曉琳教授、天邦膜技術国家工程研究中心の李輝博士、北京化工大学の馬潤宇教授らの講演があった。また、大連化学物理研究所、大連大器工業などの見学会もあり膜技術の基礎研究と応用に関する全般的な講習も行なわれた。膜分離技術は全般的に日本との差はまだ大きい、数年後にはその差がかなり小さくなると観られている。参加者は大学、企業(膜メーカー、ユーザー)、研究機関の関係者70名ほどで、ほぼ中国全土から集まった。受講生の受講態度は熱心で活発な質疑応答があった。男女の行動の差が日本よりも少なく忍耐強さが感じられた。



30年程前の高度経済成長時の多くの日本人が忍耐強く辛抱強い国民として西欧から論評されたが、今日の中国にも当てはまるようだ。

大連は日本の仙台とほぼ同じ緯度に位置している。湾に面している関係で気候は温和。綺麗な海浜では寒中水泳を楽しんでいる人も見られた。日露戦争で有名な旅順も近くにあり日本人にはある種馴染み深い都市と言える。中国のシンガポールを目指しているとの事で近代的なビルと海浜公園が現在も建設ラッシュの綺麗な都市だ。恐らく2008年の北京Olympicの頃は素晴らしい都市に変貌することだろう。食事のバラエティーの豊富さ

には驚かされた。また人のよさそうな大連美人は素朴に感じられた。1週間を過ごして、経済不況に喘ぐ日本のこれからと今の日本人の生活を顧みた時に、将来に夢と希望が持てる中国の人々の生活風景に触れて、果たしてどちらの国民が本当に幸せなのだろうかと感じずにはおれなかった。  
 <キッコーマン(株) 古川 俊夫>

### 行事予定表

日本液体清澄化技術工業会主催

講演会「中国ビジネスを考える」

日時:5月16日(木) 13:30-19:00

講演:13:30-17:30

懇親会:17:30-19:00

場所:ヨコハマプラザホテル(横浜駅東口徒歩3分)

\*詳しくは本誌3Pをご覧ください。

### お詫び

先般予定しておりました2002年第1回LFPI見学講演会「研究所水リサイクル施設の見学と水利用最適化技術講演会」が事情により中止となり、会員の皆様に大変ご迷惑をおかけしました事を深くお詫び申し上げます。

### 編集後記

広報委員会では2月1日に、ニューズレター2002年春号(本レター)から来年2003年春号までの年間計画を話し合いました。従来からの各種行事、講演会、講座、総会などの報告、企業紹介、新製品紹介を継続する他に、前号から試みましたがインタビューの続編を隔号で掲載致します。今後も皆様のところへ原稿あるいはインタビューのお願いが突然舞い込むことがあるかと思えます。ご多忙とは存じますがその節は何卒よろしくお願ひ申し上げます。

編集/発行:日本液体清澄化技術工業会 広報委員会  
 住所:東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-7 日本プランズウィックビル4F  
 TEL (03) 3350-5799 FAX (03) 3350-5779  
 LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>